

## 箱木眞澄先生のご退任によせて

厚 母 浩\*

箱木眞澄先生のご退任にあたり、一言御礼と感謝のことは述べてさせていただきます。

先生は1959年3月に大阪外国語大学英語学科を卒業の後、大阪大学大学院経済学研究科博士課程を経て、1971年4月に福島大学経済学部講師として就任されました。その後、同大学助教授、教授を経て、1993年4月、東北大学大学院国際文化研究科（国際文化交流論、経済交流論講座）教授に就任され、前期課程講義および演習を担当の後、1995年からは後期課程演習を担当されました。1999年4月より本学教授として就任され、2006年4月より、大学院担当教授となられ、2011年3月をもって定年を迎えられ、ご退任にられました。

この間2002年4月より2007年3月まで地域経済研究所長として大学運営にもお力添えいただきました。

先生は、学部では国際経済政策、国際経済交流基礎、国際環境経済基礎、EU 経済、及び国際地域経済入門を担当されてきました。また大学院では国際経済学特論、国際経済交流論特論、外書購読（フランス語）、国際経済学特殊研究、及び研究指導を担当されました。

先生はこの間、著書3編、学術論文57編、翻訳3編、研究ノート1編を執筆され、また学会発表も10回以上におよび、海外の学会でも数多く発表されておられます。

学会活動では日本国際経済学会、日本経済政策学会、日本国際経済法学会、日本 EU 学会、ロシア・東欧学会、比較経済体制学会、アメリ

カにある ISA など多くの学会に所属され、研究活動を精力的に続けてこられ、多くの研究業績を発表されておられます。なお日本国際経済学会では長年理事を務めてこられました。

社会活動としては、福島市国際交流研究会会長など、福島や仙台を拠点とした国際交流関係の要職に就かれておられます。

本学学部においては1999年、新設されたばかりの国際地域経済学科のために先生をお迎えすることができ、豊富な経験と高い見識に基づき、学科発展のために多大な貢献をされました。学科の黎明期のまさに大黒柱として学科を育てていただき、われわれをご指導いただきました。特に前任校での経験や、豊富な経験に裏づけされた幅広い知識により、船出したばかりで、多くの不安もあった学科の教員に安心感を抱かせていただき、心強く感じたものでした。

また、大学院では積極的にゼミ生を受け入れ、大学院教育にも力を注がれ、多くの研究者や卒業生を輩出されておられます。留学生を福島に招いたり、院生と一緒に企業を訪問し、現場の声を聞くという、実践的授業を展開してされました。こうして先生自らの研究・教育手法が多くの優秀な人材を育ててこられたのだなど、実感しているところです。

先生はフットワークが軽く、特に学会活動は日本のみならず世界中にわたり、ご自分の研究分野である国際経済政策、特に EU の経済事情、とりわけ環境問題や、また、アジア経済、等々と、その対象地域も広く、学会発表も精力的にこなしてこられました。その研究分野の広さと、スケールの大きさ、さらには幅広い知識に驚か

\* 広島経済大学経済学部教授

されました。関心の広さだけでなく、現地に  
出向き、そこで得られたデータを分析し、論文  
としてまとめ、さらには国際学会で発表される  
という、研究者としての姿勢を自ら示されてこ  
られました。私にとって大きな刺激をいただき  
ました。また、民間企業や専門家による現地視  
察にも積極的に参加されるなど、常に現場主義  
を貫かれ、旺盛な研究意欲はご退任になるまで  
衰えることはありませんでした。いや現在も研  
究意欲はますます旺盛になられているとお聞き  
しています。

学科会の時などで、現地視察やセミナーの情  
報のご案内をたびたび頂きながら、なかなかご  
一緒できなかったことが残念でした。ときどき  
学務等の連絡で電話すると、「今、カナダにいま  
す」、「今、ヨーロッパからです」といったご返  
事に驚かされるとともに、世界を舞台に研究活  
動をし、ご活躍されていることを改めて知り、  
まさに国際地域経済学科の鏡のような存在でし  
た。

3月の東日本大震災では、ご自宅が福島とい  
うこともあり、みなさんが心配していましたが、  
先生ご自身は、奥様とご自宅の無事を確認され  
るや否や、当日にはカナダでの学会発表に向か  
われたとお聞きしています。先生は「最初から  
の予定でしたので」と、何事もなかったかのよ  
うに言うておられ、これが学者魂、研究者魂と  
言われるものと改めて感心させられました。

先生の研究室を最初に訪ねた時はいささか驚  
きました。先生の研究室は足の踏み場もないく  
らいに蔵書や資料が山積みになっており、2本  
の足で立つスペースがやっと確保されていると  
いう状況でした。先生は「このままが自分に

とっては居心地がよく、およそ何がどこにある  
かわかります」とおっしゃって、先生の研究の  
姿勢の一端がうかがえたものです。

在職中、健康には気をつけられていましたが、  
学科会でも少々、お疲れが出ている様子が窺え、  
欠席されてもいいのにとおもっても、学会などで  
海外に出張されている以外は必ず出席されるな  
ど、学科に対する強い思いを感じました。

奥様も福島大学で経済学の研究者、教育者と  
して教鞭を執られていることから、ご夫婦で同  
じ研究の道を歩まれ、夫唱婦隨の微笑ましい光  
景も目にすることができました。奥さまは研究  
者以外に童話作家やオルガン奏者としてご活躍  
され、興動館で奥様のミニライブが行われた時  
は、先生がとてうれしそうに聞き入っておら  
れたのが印象的でした。また学内では足が疲れ  
ない運動シューズを履かれ、両肩には鞆を提げ  
られ、首には携帯電話の紐がかけられている姿  
が印象的で、形にはとらわれないご自分のスタ  
イルを貫かれていました。ご研究もご自分のスタ  
イルで極められたのだらうと僭越ながら思っ  
ています。

福島と広島を軽自動車で行復されるほど、車  
の運転もお好きなようで、今後は奥様とご一緒  
の時間を多くもたれ、ドライブや、お好きな釣  
りをゆっくり楽しんでいただきたいと思います。

国際地域経済学科を今日まで支えていただき、  
導いていただいたと同時に、研究者、また教育  
者として、温厚な先生のお人柄によって多くの  
ことをご教示いただき、感謝の念に堪えません。

ご健康にはくれぐれも気をつけられ、益々  
のご活躍をお祈りし、今日までいただいたご指導、  
ご鞭撻に対して感謝申し上げます。